編集後記

本号は，白石昌也先生のご退職記念号として，早稲田大学大学院アジア太平洋研究科の教員，先生の研究仲間，また，同研究科で先生のご指導を受けて博士号を取得した卒業生による論文から構成されています。テーマは，白石先生のご専門地域のベトナムを含む東南アジア研究の枠を超え，経済，歴史，文化，国際関係論，安全保障と多岐にわたっています。これは，研究科の研究領域の幅広さを示すものであると共に，先生の専門領域の広さも証明するものといえるでしょう。本号に論文をお寄せくださった執筆者の方々に厚くお礼を申し上げます。また，論文集の投稿規程などによって御寄稿頂けなかった方々には改めてお詫びを申し上げたいと思います。

私はアジア太平洋研究科の二期生として，修士課程から博士後期課程まで白石先生のご指導を受けて参りました。研究者として「あるべき姿」というものがあるとすれば，そのあるべき姿をずっと身近に見てきたように思います。派手なことは好まず，地道に研究を積み上げる白石先生の姿勢はご退職まで貫かれていました。先生が語らずとも本号に収録されている業績目録が多くを語っています。

筆を荒らすんじゃない，完璧な論文なんてあるわけない，非常に傲慢だね，等々，白石先生は時に厳しい言葉で私たちゼミ生を叱咤激励し，研究対象と論文に謙虚に向き合う姿勢を教えてこられました。私は昨春早稲田大学を離れましたが，非常勤講師として大学を訪れた際に先生の研究室を時折お訪ねするのを楽しみにしておりました。就職が決まった時もそうでしたが，執筆した本や教科書が発行された時には，まず先生にお知らせに行くことにしていました。それは，普段は（叱られるかもしれませんが）愛想のない先生が振り返って「おめでとう」と言葉をかけてくださるからでした。それは私にとってどんなに励みになったでしょう。来春からは研究科に先生のお姿がないと思うと寂しい気持ちになりますが，ご退職という節目にあるだけで，先生の研究人生はまだまだ続くことを考えますと何かが終わっていくわけではなく，むしろ新しい研究生活の始まりであると思い直しています。これからも一途に研究人生を歩まれる先生の背中を見ながら，自分の研究の不甲斐なさを戒めながら，また，先生のご業績に憧れながら，研究者として同じ道を歩んでいくつもりです。

本号に寄稿してくださった執筆者全員の思いを代弁して，白石先生の今後のご健康と益々の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

本多美樹（法政大学）